

第8回米百俵賞受賞

(平成16年6月15日表彰)

山之内 義一郎 (長岡市)



都市部の学校の子どもたちにも身近に自然と触れ合い、豊かな感性を育ててほしいと、地域住民や児童とともに校内の空き地に苗木を植え、「学校の森」づくりを実践した。

■受賞時プロフィール

長岡市立川崎小学校長であった山之内氏は、子どもたちが自然の中で遊び、地域とのつながりを取り戻せるようにと、「学校の森」づくりを提唱した。しかし「学校の森」はいわば雑木林であるにもかかわらず、約300万円もの費用が必要であるため、当初は「なんでそんなもの」と山之内さんに賛同する人はほとんどいなかった。

田園に囲まれた多くの小学校で校長を務め、地域と自然の中で児童を遊ばせることの大切さを知っていた氏は、都市の中心部にある同校の子どもたちに必要なのは「森」と確信し、「森で子

どもが毎日四季を感じ、そこから学ぶ喜びが生まれる」と地域住民たちを説得し続けた。氏の熱心な説得が受け入れられ、寄附も集まり、住民や児童とともに学校の敷地の一角に苗木を植えていった。はじめは「林」にも満たない小さな「森」だったが、やがて木々が育ち「森」となると、子どもたちだけでなく、地域住民



▲昭和63年 学校の森づくりの様子



▲森の中で遊ぶ子ども

も森で祭りを催すなど、しだいに住民と児童が触れ合う機会が増えていった。

山之内氏は同校から転任後も活動を続け、平成3年に退職した後は著書の出版や、国内はもとより海外で講演を行うなどし、「学校の森」の大切さを訴え続けた。教育の専門家らの賛同者も増え、多くの学校に活動の輪が広がった。

一校から始めた「学校の森」づくり。現在、新潟県内で100校近くの小中学校が取り組んでおり、関心を示している学校も合わせると同県内だけで270校にもなる。県外の学校からも問い合わせがある現状から山之内さんは、「学校の森」づくり活動に賛同する学校を支援し、活動の輪を広げるために、NPO法人「学校の森」を立ち上げた。

■受賞後の活動

山之内氏は米百俵賞受賞後も講演会やシンポジウム、書籍、雑誌などを通して「学校の森」が子どもたちにもたらす教育的効果について発信し続けてきた。

氏はその効果を次のように語っている。「『学校の森』は子どもの『自己発見』の喜びを実感する場となり、『感じる、気づく、つながる』場になった。この両者がそろって初めて教育本来の場にふさわしい学校に変わっていく」。

■主な受賞歴

○平成17年 第37回吉川英治文化賞



▲長岡市立川崎小学校の「学校の森」